第 2015-30 号

恵みと真理のニュース

2015 年 7 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　主の広く深い愛であたしを満たしてくださり感謝します

私は山の村田舎で生まれイエス様について全く知らないまま、お母さんがお茶碗に水を入れて拝んで
偶像崇拝をする姿を見ながら育ちました。偶像崇拝をするのが当然だと思いました。
青少年の頃友達の二人がイエス様を信じてリバイバル会のような集会がいる時なら暗いなかでも4キロメタ以上遠い道を歩いて教会に行てきました。若い少年にも関わらず夜中の道を恐がらなくて期待した心で教会に行て来る友たちが私が見るときにはおかしく見えました。たまには友達をついて教会に行きたい時もありましたが、偶像崇拝をする叔父さんが恐くて教会に行くのは夢に考えられませんでした。

私が結婚をして時間が経て1988年アンヤンで引越ししました。すると恵みと真理教会の区域長達は私の家によく来て私を伝道しました。しかし、私の行きたくないので様々な言い訳をして断りました。どころが、長女が先にイエス様を受け入れ、私の家に来る時には恵みと真理教会に行って礼拝を捧げました。私を伝道しながら家に帰って来る日まで朝祈り会にも行って私のため祈りました。
娘の強い勧めと区域長達の愛と新設に感動して教会に通う決心をして書店に行って聖書と賛美歌を購入しました。そして、隣り人に住む執事をついて生まれ始めて教会に行きました。一生忘れられないその日、主を受け入れた2001年5月9日水曜日でした。その日初め教会に行ったらおかしい事が国境に来たように心が平安になりました。当会長牧師の説教の御言葉に大きい恵みを受けました。

教会に通い始めて一ヶ月になる時、首区域長が朝早く私を探しに来て一緒に奉仕することを勧めました。マンナ室でニンニクの皮をむく事でした。教会に行ったら山ほどあるニンニクの皮をむく女性の執事達を見てびっくりしました。一方は大きく心配になりました。その当時には指の関節炎があって手を使うことがよく出来ませんでした。午後になってみんな家に帰り残った何人と男性執事建ちと掃除と整理をして夜遅く家に戻ってきました。どころが珍しい事が起きました。奉仕する間も帰って来て指の痛みがなくなりました。世で感じなかった神霊なやりがいを感じました。その時私は生きている神様は私をきれいに見てくださり指の関節炎を治してくださったことを確信しました。神様の恵みに感謝してその後、主日ことに午前9時30分礼拝を捧げてマンナ室で夜遅くまで楽しい心で食事の準備とお皿洗い奉仕をしました。

礼拝と奉仕で楽しいと神様はもっと豊かな恵みを与えてくださいました。日々信仰が育ち主の中で新しく生きる喜びを与えてくださいました。礼拝を通して御言葉で新たになり家庭を祝福してくださいました。切ない心で神様に捧げて祈たら神様の時になると神様の方法で答えてくださいました。2005年には広い家も与えてくださいました。何よりも神様に感謝するは旦那と息子の家族も清い神様の民になり神様に賛美し教会を支える救いの恵みと与えてくださいました。
アンサンで引越しして私はもっと主を畏れ、教会を支えて伝道賞を受けるほど福音を伝える事に力を使ったら神様は恵みを与えて下さり旦那と息子達が家族を救ってくださいました。そして、信仰の上に恵みを下さり神様から受けたタレットで教会と聖徒を支えるようにしてくださいました。長男も三回以上伝道賞をもらうほど熱心に伝道しました。そして、神様は栄誉である勧士の職分をくださいました。救いの献身だと思ってまず教会と牧師と区域聖徒のため祈って恵みと真理ニュースを持って不信者に伝えました。

二番目の息子がまだイエス様を受け入れませんでした。それで私達の夫婦は共に休まずに祈り、その名前も天国の生命本に記録される事を切に願う心で聖書を休まずに一説一説読んで黙想しました。“二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。”（使徒言行録　16：31）御言葉の通り二番目の子も福の源になる主を受け入れ永遠な幸せを享受することを信じます。今日私が享受する全てを真実で神様に感謝し賛美捧げます。

［信仰コラム］　真正な満足の中に享受する幸せ

わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。 わたしは貧に処する道を知っており、富におる道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。（ピリピ人への手紙，4:11~12）

人は誰も幸せなのを願います。 そうなのに ″私は本当に幸せです.″と言う人は多くないです。 幸せと言うのは一口で言って満足を感じる状態です。 人々は自分が願うものなどを所有することで満足を得ようとします。 しかし現実においていつも自分が得ようとすることを所有するようになって成就することができるのではないです。 それだけではなく望んだことを獲得して成就した時の満足感はいくら行かなくてあせてしまいます。 以前よりもっと大きい欲求ができるからです。 いつも満足した心を持って生きて行く道に関して調べます。

第一に、 貪欲を捨てなければなりません。

現在持っていない何のを得ようとする欲求を持つのが貪欲ではないです。
現実の不便と不足を改善してもっと豊かにさせようとする考えを持って努力することは非常に正常な生の態度です。 その心に神様に対して感謝がなしにもっと多いことを得ようと思うことが貪欲です。 聖書に貪欲が何やら説明してくれる実在的な例が記録されています。 出エジプトしたイスラエル民が乳と蜂蜜が流れるガナアン地を向けて荒野の道を行進しました。神様が毎日マンナを下げてくださいました。 マンナは栄養分が十分でマンナだけ食べてからも虚弱な者が一人もいなかったです。 ところで彼らの中に混ざって暮す群れが貪欲を抱いて不平を言い始めました。 神様の贈り物であるマンナに対して食べる度に感謝するべきなのに不満を噴き出しながら恨みました。 神様がきいて震怒なさいました。 うずらを地上で下るようになさってその肉がまだ彼らの歯の間においてかまれる前に甚だしく大きい災いで打って多くの人が死にました。 そしてその所の名前を ’貪欲の墓’という意味である ’ギブロッハッダアと言うようになりました。 私たちの生活を詳らかによく見れば神様の恵みと愛が染みていない所がないということを見つけるようになります。 私たちは与えられた現実に対して神様に感謝して、そんなの中にもっと高い目標を立ててもっと多いことを神様に切に求めなければなりません。

二番目で、私たちの満足は主イエスキリストによったことではなければなりません。

パウロは ″八日ぶりに割礼を受けてイスラエルの族属でありベニャミンの支派ですヒーブリ人でのヒーブリ人であり律法ではパリサイ人であり律法の義ではきずがない定規″でした。 またローマ市民権を持ったし大きい都会人キリキアのタソ出身でした。 こんなものなどを通じて彼は満足を得ました。 しかしダメセック道の上で復活したイエスキリストに会った後パウロの生は変化されました。 イエスキリストの中で持つ満足に比べてそんなものが何でもないのが分かるようになったからです。私たちに真正な幸せになる満足は主イエスキリストによる満足です。イエスキリストが私たちの知恵になって、義のあることになって、聖なるになって、あがないなさることを思いながら満足してください。 イエスキリストによって永生を得るようになったことを思いながら満足してください。 イエスキリストが予備なさった家の所に将来入って行くようになることを思いながら満足してください。 イエスキリストをよって将来にイエスキリストの光栄な身の形体と一緒に変わるようになることを思いながら満足してください。 私たちの願いがかなわないで挫折される場合でも神様を愛してそのみ旨どおり生きる者に神様がさらなる知恵と明哲と能力に役事なさって結局は善を成すのを分かって ″神様、私は満足します.″と叫ぶことができる者になってください。

満足は貧しい人を富みのようにするが不満はたくさん所有した者を不幸に暮すようにします。 聖徒は満足した生を生きて行くことができる身分と資格を受けた者です。 だから幸せを追い求めるのではなく幸せを享受しなければなりません。 貪欲を捨てるようにしてください。 貪欲は不満足を生んで不満足は不幸を呼び入れます。 だからイエスキリストによる満足を満喫してください。 そして真正な満足の中で幸せを享受するようになるように願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

つぶやいてはならないすべての事に感謝しなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

その人の信仰状態を現わして見せてくれるのがいろいろあります。 聖書に記録されたお言葉に対する正しい知識と信仰は根源的なのです。礼拝、伝道、奉仕、神様に供え物をささげるなどに対する態度もその人の信仰状態を言ってくれます。 その外にもあります。 品性の前向きの変化もその人の信仰状態を現わします。 また感謝する態度です。 これは信仰状態を易しくて明らかに見せてくれるのです。 神様に対する感謝と信仰の深さは比例します。 だから聖徒はすべての事に神様に感謝する生活をすることが目標ではなければなりません。 今日はすべての事に神様に感謝する聖徒になるために必ず実践して適用しなければならないこととその結果に関してよく見ます。

1. 恨みと不平を治めなければなりません。

コリント人への第一の手紙, 10 章 10 節に “ある者たちがつぶやいたように、つぶやいてはならない。つぶやいた者は、「死の使」に滅ぼされた。”と記録されました。 恨みと不平は感謝する心を消滅させます。 恨みと不平は神様の懲罰をもたらします。 聖徒が恨んで不平を言う理由をおおよそ五つで分類することができます。

第一、否定的で悲観的な性格のためです。
否定的な性格、悲観的な性格を持った人は自分が直面した事物の暗い面だけ泥むきらいがあります。 事物の欠点や短所を探すことが悪いことだけではないです。 その目的が欠点を補うとか適切な対応策を用意するためのことなら必要な事です。 ただ私たちが留意しなければならないことは欠点を探すことにだけ偏重されないようにするのです。 欠点だけ探して言うのが好きなくせを持つようになれば判断力が均衡を失うようになります。 それがくせになれば結局には性格化になってしまいます。 自ら出ることができない人格が形成されてしまいます。

第二、満足が分からないからです。
恨みと不平は不満から始まって不満は欲深でよります。 欲深と言うのは “度が外れた欲心”を言います。 欲深が生じれば同時に不健全な不満が生じます。 不健全な不満は破壊的な性向を持っています。 恨みとねたみと争闘を起こします。 恨み不平が生じれば欲望を減らさなければなりません。 所有したい心、何を得るとか何の仕事をしようと思う心はいつもなければなりません。 ただ感謝する心の土台で欲求を持たなければなりません。 感謝を消滅させる欲求は皆が欲深です。 欲深は果敢に捨てなければなりません。
また不満を予防しようとすれば自分が所有して享受することを当たり前なことで思う考えを捨てなければなりません。 生存のために存在するすべてのものが神様が下さる奇妙で驚くべきな贈り物です。
人が一生涯を暮しながら食べて飲んで使うすべてのものに対して自分にどんな資格や功労や権利があると主張してもその根本と根源は神様の恵みによったのです。 だからこのすべてのものなどを所有して使う度に神様の恵みを思わなければなりません。 私たちが所有することや享受することに対して当然思うことは一つもないです。 私たちは神様を向けて感謝することしかないです。 すべての事に感謝する心で生活しない人は自分が享受して持つものなどを当然之事で思うからです。 このように当然之事でここはくせは徹底的にとり除かなければなりません。
また今という時間と現在持っているものなどを大事に思うことができなければなりません。 今という瞬間瞬間を感謝するように思って楽しく生きて行く人が賢い人です。 多くのもの所有した人が金持ちではなく現在あることを感謝して喜びと感謝として享受する人が真の金持ちです。 毎日新しい日を迎える度に皆さんはすごい興味を持ってその日を迎えるように願います。 そうではなければ恨みと不平がその席の代わりをするようになります。 現在あることの価値が分かって大事にしなければなりません。流れる歳月とともにそのすべてのものが喪失された後にその大事さと価値を言いながら嘆く事があってはいけないです。

第三、聖徒が恨んで不平を言う理由は神様の約束に対する信仰不足のためです。
神様はイスラエル子孫に恵まれた約束を数えきれなくくださったが彼らは信じることができなかったからともすれば恨んで不平を言いました。 聖書には聖徒のために約束したお言葉が数えきれないほど多いです。 このような約束を固く信じれば恨んで不平を言う事が消えます。

第四、神様の計画とみ旨に対する理解不足のためです。
神様はイスラエル子孫のために偉大な計画と善良なみ旨を持って荒野の道で導きました。イスラエル民はこれを理解することができなかったから “私たちを荒野で死なせようと導き出した。” と恨んで不平を言いました。

五番目、神様の能力に対する信仰不足のためです。
神様は全知全能なさるから人ができないことをつくすことができると聖書に記録されています。 恨みと不平は全能な神様に対して不信する心でできます。

2. すべての事に感謝する秘訣があります。

第一、神様の助けを期待して神様の摂理を信じればすべての事に感謝するようになります。
神様は愛と権能の手を突き出して彼の子を助けてあげます。 自分が神様の子なら神様の助けを期待して求めるのがとても自然なのです。そして神様の摂理なさる手助けを信じなければなりません。 仕事を主観して治める神様の能力は奇妙です。 聖徒の皆さんはこんなに言えます。 “神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”(ローマ人への手紙, 8 :28).

第二、救われた事実だけでも満足することができればすべての事に感謝するようになります。
“キリスト信じてよくできたこと何か?” と言う人がいます。 イエスキリストを信じてよくできたこと中に第一は救い受けたのです。その残りは救い受けたことに比べれば非常にささいなのです。 救いに関して聖書に記録されるのを “それは、信仰の結果なるたましいの救を得ているからである。”(ペテロの第一の手紙, 1:9)、 “わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、”(ヘブル人への手紙, 2:3) しました。 救い受けた事実から始まる神様に対した感謝がますます上がれば満ち溢れて礼拝と伝道と奉仕と備え物差し上げことで現われるようになります。 テサロニケ人への第一の手紙 5 章 18 節に “すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。”と記録されました。 すべての事に感謝しなさいというお言葉は易しく受け入れにくいお言葉です。 しかし聖書には私たちに不可能な事を言い付けていないです。 すべての事に感謝しなければならない人が誰なのかを明らかにしています。 “イエスキリストにあって” ある者等を向けたお言葉という意味です。 他に言わば “イエスキリストに” ある者には可能な事であるというお言葉です。 キリストにいる者はすべての事に感謝することができる十分な理由があります。 その感謝の理由が神様に根拠しているから確固不動します。 永遠に変わらない。 だから聖徒はすべての事に感謝することができます。

3. すべての事に感謝すればそこに適当な結果を得るようになります。

第一、すべての事に感謝すれば健康に有益です。
感謝するによって心が楽しくて平安になれば疾病の予防と治療効果もよるようになります。心の楽しみが私たちの精神と肉体に及ぶ肯定的効果に対して現代医学が明らかにしてくれています。 心の楽しみが神経系と各種ホルモンの生産と作用に及ぶ影響に対してとてもおもしろくて信じられる研究結果が知られています。そしてこのごろは元気に生きようとすればたくさん笑いなさいと教えています。 聖書の 箴言, 4 章 23 節に “油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。” したし、17 章 22 節には “心の楽しみは良い薬である、たましいの憂いは骨を枯らす。” 言いました。 感謝する心にはいつも楽しみがあります。 皆さんは感謝する心で楽しみが湧き出させて良薬にいいようにしてください。

第二、すべての事に感謝すれば良い隣りが多くなって他人の助けを借ります。 感謝する人にはもっと与えたいことが人の常です。

第三、すべての事に感謝すれば試験に入らないです。 ともすれば試験に入る人をよく見れば間違いなく感謝が不毛であります。

第四、すべての事に感謝すれば信仰が成長して堅固になります。

五番目、すべての事に感謝すれば感謝する者に約束したお言葉が自分に成り立つことを体験するようになります。

“感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す」。”(詩篇,50:23)、“おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。”(マタイによる福音書, 25 :29). このようなお言葉が皆さんの生にそのまま成り立つことを体験することができます。

愛する皆さんは恨み、不平を言わずにすべての事に神様に感謝してください。 感謝する聖徒に向けて突き出す神様の手をつかまえて人生の道を歩く幸せを享受するように願いします。